

# 名前(職階のなごり)の由来?

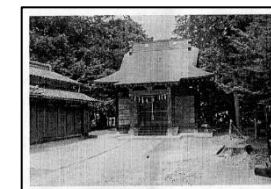
河野和泉守

常光村 (後の鴻巣市常光)

主に Wikipedia より

岩付太田氏に仕え、慶長年間に当地に土着すると、代々名主を務めた。

岩付太田氏に仕え、その息子五郎左衛門は村の鎮守である氷川社の棟札に本願寺旦那としてその名がみられる。寛永2年と伝えるが、子の時、氷川社が再建されたか、あるいわ、大掛かりな改築が施されたものと思われる。村落内における河野家の地位を推測できるものである。



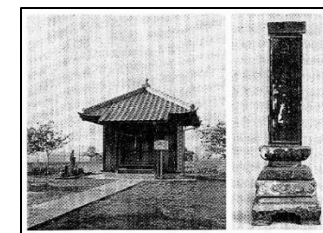
河野氏ゆかりの常光神社

立川石見守

上谷村 (後の鴻巣市上谷)

岩付太田氏に仕え小田原征伐の後に当地に土着したものと考えられるが、記録を失い詳細は定かではない。上谷に龍燈という小字がある。ここに大きな沼があり農民を困らせる龍が棲んでおり、天正の頃に岩槻の浪人立川石見守が退治し、村人はこれを悦んで龍燈と名づけ、沼を干拓し水田とした。

12世紀武蔵国内に成立した中小武士団である武蔵七党の流れをくみ、戦国時代に太田市の旗下となったが、岩付落城で没落、上谷村に土着したことが「新記」に記されている。このような、竜退治の話は、全国各地に伝わるが、いずれも「荒ぶるものを(神)」を鎮めた英雄伝説と結びついたものである。元荒川の洪水によって村民は苦しめられてきたが、それを竜に置き換え、その竜を退治した。すなわち、治水対策に尽力したことが縁となって、上谷にすみ着き、村の草創期において、おおきな役割を担ったことが想像できる。



薬師堂(上谷)と立川勘兵衛の位牌

本木某(勘太夫)

加納村 (後の桶川市加納)

岩付太田氏旗下の鴻巣七騎の一人と伝えられているが、記録を失い詳細は定かではない。室町から戦国期に存在した加納城は本木氏、または本木氏の祖先の城であったと推測されるが実態は定かではない。

加納村(桶川市)の旧家勘太夫(下分)も子孫と伝え、加納城跡地内に在る本木家(上分)がその本家に当たるといふ。代々名主を務めている。

なお、加納城は、室町・戦国期の本木氏の館跡と伝える。本木雅弘の祖先は、勘太夫(下分)からの分家と伝える。



大スター本木  
君の実家は?

矢部某(半兵衛)

下谷村 (後の鴻巣市下谷)

大島大炊助、大膳亮らと共に帰農するように命じられた矢部新右衛門のことと推定される。中下谷村や北下谷村に村役人として定着した。

矢部氏は「新記」の下谷村「旧家 半兵衛」の項に「世々中下谷村の里正にして矢部を氏とする。祖先は、岩槻の城主太田氏の家人にて、鴻巣七騎と唱えしその一人なり」とあり、矢部氏が鴻巣七騎の一人で下谷村に土着して、中下谷村の名主となったことを記している。

小川凶書

山中 (北本市)

詳細は不明であるが、北本東中付近の堀込の地か

図書とは??